

4月29日, 30日

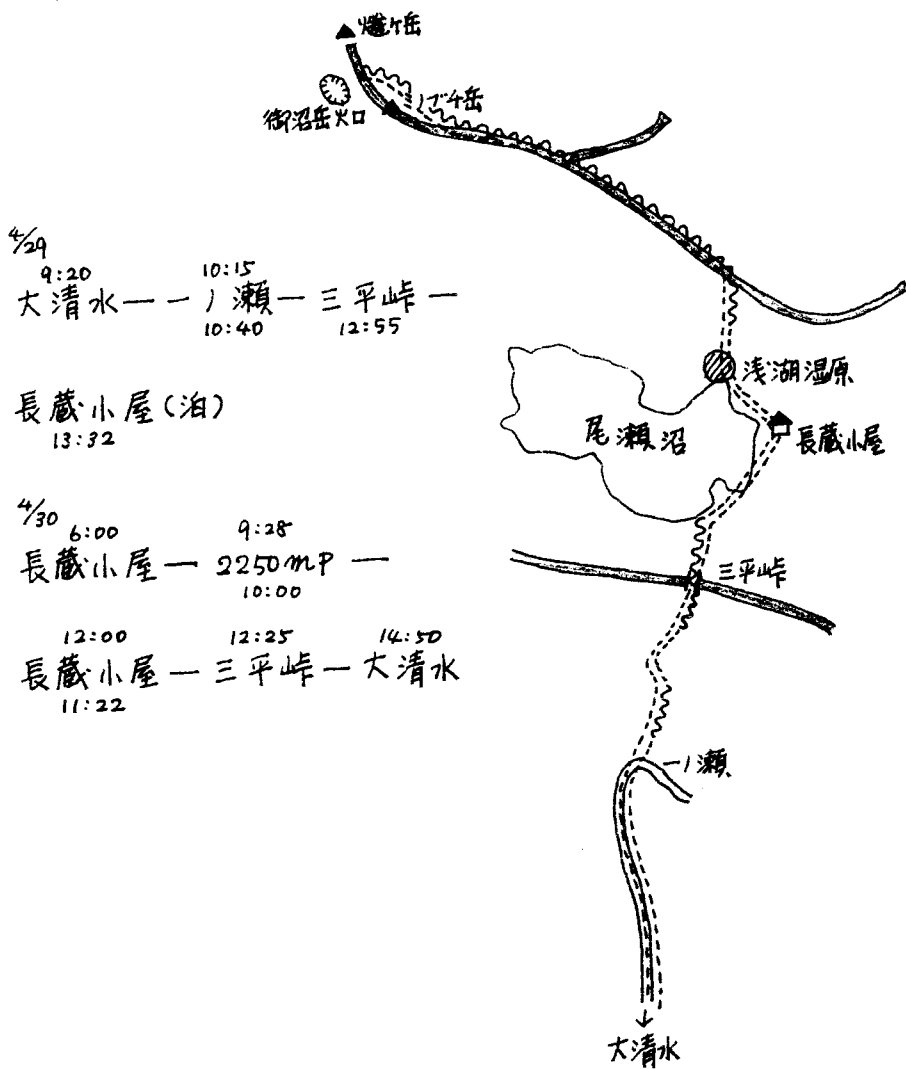
燧が岳

メンバー 手塚, 他1名

29日(①)連休前半は, 至仏山を軽く滑り, 山の鼻あたりでゆったり休養するつもりでかけたのに, 何と深夜の沼田駅で鳩待峠へのバスはまだ開通していないと知らされる。鳩待峠まで片道3時間の車道歩きなんて現実的じゃない, と大清水からの入山を決めた頃には, 大清水行のバスは出まじって, シュラフもなくて又ひととき冷え込みの厳しいこの夜に, 沼田駅で一夜を明かさねばならぬとは何たる不運。朝7時過ぎのバスでや, と大清水に向かう。前々日の雪で大清水からず, と雪道だったが, もちろんシールを使えるほどではなく, 三平峠までスキーを担いで行く。当然の事ながら登山者も多く, 家族連れなどがスニーカーをびしょびしょにしながらも全く気にせず実に明るい。三平峠からはつかのまの滑りを楽しんで, 尾瀬沼のへりをそのまま進んで長蔵小屋に向かう。沼の雪解けはかなり進んでいて, スキーでない人はシャベット状の所にしばしば水没している様子だった。長蔵小屋は, や, ぼり中高年登山者が多い感じで, 「私達もこの分だと, 10年や15年たっても来られそうね。」と, 友達と語り合う。

30日(①) 今日晴天に恵まれて, 長英新道をシールで登る。帰路は, 御池にトリたか, たのだけれども, こちらもまだバスが開通していないとの事。又又三平峠を越えて延延と帰らねばならぬと思うと心が安まらない。時間の事も考えて, ミ174岳のちつと先の火口のへりまで登って終了とする。それでも静岡から遠路はるばるや, てきた友達は大喜びしていて, 記念撮影に余念がないのを冷たく急かして下りにかかる。上部はまあまあながら, すぐに抵抗の大きい新雪に苦勞しながら回転する。さらに下部は, ほとんど平らで, 登山者のトレースをレールのように使, て何と

かスキーを滑らせていく。長蔵小屋ではビールで祝杯をあげる暇もなく、すぐに三平峠へと向かう。三平峠からゆるやかな尾根をしばらく滑る。その下の急な下りは雪もなくもちろんスキーは担いだけれども、さらに下はゆるやかな雪原となりしばし滑降。再び雪が切れて、「まだ滑れるかな」とスキーを手に持ったまま歩いていくと一ノ瀬に着いてしまい残念。林道の雪は全く消えてしまっていて、今日はジャリ道を大清水に帰る。やっぱり過ごしたいというもくろみは全くはずれて、とにかくあわただしい山行になってしまった。



4/29
 9:20 10:15
 大清水 — 一ノ瀬 — 三平峠 —
 10:40 12:55

長蔵小屋(泊)
 13:32

4/30
 6:00 9:28
 長蔵小屋 — 2250mP —
 10:00

12:00 12:25 14:50
 長蔵小屋 — 三平峠 — 大清水
 11:22